

平成24年度組合研究大会

3月13日、前橋市・マリーキュリーホテルにおいて、組合研究大会を開催しました。
「今、中小企業組合に求められるものは何か！～先進組合に学ぶ事業展開事例～」をテーマに、基調講演と事例発表・意見交換を行いました。

基調講演

組合連携組織の活性化を目指して～組合 絆 ルネサンス～
全国中小企業団体中央会専務理事 眞鍋 隆氏

主催者を代表して金子正元会長が挨拶をした後、全国中小企業団体中央会専務理事眞鍋隆氏が基調講演を行った。

眞鍋氏はまず、「震災後、その対応や復興に組合が貢献しているという情報が次々としてきた。被災地では、共同で冷凍施設を建てた組合や、共同の自家発電を導入した組合も多いが、これらは1社ではできない。ひとえに組合だからこその事例」と語った。

次いで、産業の方向性について、日本全体で研究開発費や設備投資が減っており、将来の競争力や経済に悪影響を与えかねない旨を説明。また、従来は国内中心だった

素材型産業の海外移転による「根こそぎ空洞化」の可能性を解説し、国内に成果を還元できるような海外展開の必要性を説いた。

また、最近の政策について「復興・防災対策、経済成長、地域活性化に重点が置かれており、中小企業向け支援策も数多い。是非積極的に活用して欲しい」と述べた。そして、今後の中央会の役割について『組合 絆 ルネサンス』

とは、組合の絆の力によって、被災地・日本の中小企業・経済の復興を図るとともに、その役割を果たす中で組合に新しい光を当て、組合の絆の力それ自体の復興を図ることを目標に掲げたスロー

ガンである。中央会の会員は3万組合もあり、その組合員企業は300万社にのぼる。これは大変価値のあること。中央会を総合商社としてとらえ、マーケティングの概念を取り入れながら、組合の力の有効活用や組合間連携などでビジネス拡大を図っていきたい。具体的には、①被災地の組合設立、②BCPの普及、③海外展開支援、④農商工連携、⑤組合間連携、⑥地域貢献などに重点的に取り組む。各都道府県中央会同士の連携や他組織との連携を強化しながら、『組合 絆 ルネサンス』を具現化していきたい」と強く語った。

最後に、「中央会は組合の支援に最大限尽力していく。皆様の積極的な参画とともに忌憚のない意見を頂戴したい。そして、絆の力で『組合 絆 ルネサンス』を実現していきたい」と結んだ。

事例発表・意見交換

群馬県酒造協同組合

理事長 柳澤 光雄氏

柳澤氏は、「当組合は、24年度に



眞鍋 隆氏



金子会長



柳澤 光雄 氏

若手からの提案で、地産地消を目標にすべての原材料を群馬県産とするオール群馬の地酒『舞風』を企画した。舞風は、①群馬県産の酒造好適米舞風を100%使用、②群馬県産のKAZE酵母を使用、③精米歩合60%以下、④組合で策定したシンボルマークを使用、という条件を満たしたブランドである」と、開発の経緯や概要を紹介した。

また、「地元メディアに取り上げられるなど、舞風の反響は想像以上に良かった。みんなで一所懸命造ったものは、世間も目を向け、応援してくれるということを感じた。今は一国一城の主の時代ではない。みんなで身を寄せて励むことが重要である。情報を集め、共有しながら、老壮一体となつて頑張っていきたい」と語った。



中島 庸一 氏

中島氏は、「当組合では、街区の食料品店が閉店し、高齢者の買物が不便になったことを受けて、買い物代行を行った。何軒回っても1回の利用料は300円、回った家庭からは資源ゴミを回収し現金化することで、財源を補填した。商店街以外の商品購入依頼が多くなったため、現在は休止。このほか、ケアハウスに向けた出張商店街などを行っている」と商店街の取り組みを説明した。

また、「現在は、高齢者住宅を備えた複合施設を企画している。『商店街から生活街へ』のスローガンのもと、生活を支える人にやさしい商店街を作っていきたい」と語った。

沼田市中の会商店街振興組合

理事長 中島 庸一 氏



多賀谷 剛 氏

多賀谷氏は、「当組合は、BCPの一環として、30年経つて老朽化した組合会館と給油スタンドを一新した。震災の教訓から、スタンドは停電時にも給油が行える施設とし、広さも以前の2倍、敷地の地下のタンクには500kgを備蓄している」と説明した。

原油の高騰、規制緩和による競争激化、長引く不況と、厳しい時期に敢えて設備投資した理由について、「将来に備えることや検査が厳しくなっていることもあるが、一番の狙いは組合員の結束。高度化資金の返済が終了し気が緩んだことや、組合員企業の代替わりが原因となつて、組合の結束が弱まりつつある。若い人が中心となつ

伊勢崎流通センター事業協同組合

理事長 多賀谷 剛 氏



意見交換では忌憚のない意見が交わされた

て、この施設を組合員の新たな拠点として運営し、団結していつて欲しい」と語った。

◆ ◆

事例発表後、中央会中山正司専務理事を司会に、眞鍋専務、3理事長をパネリストに迎え、意見交換を行った。

眞鍋氏は全国の組合の事例を紹介するとともに、事例発表組合のビジョン等について尋ねた。質疑応答の中、国等への要望や組合の本音、想いなど忌憚のない意見が交わされ、最後に、金子会長から中小企業政策への大いなる期待が述べられ閉会した。